JSS 評価ガイド｜意識・言語・無視

日本脳卒中スケール（急性期）／第5版の判定内容を独自の表現で整理

新しい神経症状・急な悪化では、採点完了を待たず医療対応を優先します。

1 意識

GCSまたはJCSによる覚醒・反応の分類。使用した尺度と内訳を併記する。

分類	判定の要点	重み
A	GCS 15／JCS 0	7.74
B	GCS 7〜14／JCS 1〜30	15.47
C	GCS 3〜6／JCS 100〜300	23.21

2 言語

拳をつくる口頭指示、時計の呼称、「サクラ」の復唱、住所・家族名の表出を確認する。両側麻痺時の最初の課題は口頭指示による開眼。

分類	判定の要点	重み
A	4課題すべて可能	1.47
B	2〜3課題が可能	2.95
C	可能なのは0〜1課題	4.42

3 無視

線分二等分と生活・診察中の行動を照合する。公式資料の指定は25cmの線分。

分類	判定の要点	重み
A	二等分で異常を認めない	0.42
B	二等分に半側空間無視が現れる	0.85
C	麻痺への認識を欠く、または一側空間を無視する行動がある	1.27

意識：GCS／JCSは二重加算しません。JSS用紙のJCS符号9〜0と通常のJCS表記を混同しないでください。上表は通常のJCS表記です。

無視：指定の線分は25cm。本PDFには検査用線分を印刷していません。画面上や縮小印刷した線を、同じ検査条件として扱わないでください。

基礎情報、難聴・視力・言語、鎮静、疼痛、拘縮、検査体位を確認。未評価の項目を0点で埋めず、判定できない理由を残します。

JSS 評価ガイド｜神経所見

視野・眼球運動・瞳孔・顔面・足底反射・感覚／正式手技は原資料・施設手順で確認

項目	分類	判定の要点	重み
4 視野	A	同名性の欠損・半盲を認めない	0.45
	B	同名性の欠損・半盲を認める	0.91
5 眼球運動	A	障害を認めない	0.84
	B	左右への注視が十分にできない	1.68
	C	偏位した眼位から反対へ注視できない、または正中固定	2.53
6 瞳孔	A	径・対光反射とも異常なし	1.03
	B	片眼に異常	2.06
	C	両眼に異常	3.09
7 顔面	A	麻痺を認めない	0.31
	B	片側の鼻唇溝が浅くなる	0.62
	C	安静時から口角が下がっている	0.93
8 足底反射	A	正常反応	0.08
	B	判定がはっきりしない	0.15
	C	病的反射を確認（1回でも陽性なら該当）	0.23
9 感覚	A	感覚障害を認めない	-0.15
	B	軽度の感覚障害	-0.29
	C	明確な感覚障害	-0.44

感覚の重みは負の値です。符号を変更しません。感覚単独の悪化が総点低下につながるため、総点と所見を必ず併記します。

JSS 評価ガイド｜運動系

手・腕・下肢は臥位で評価／介助で動かした範囲と自力の動作を区別

10 手

臥位で評価。母指と小指の対立、コップの把持、指の動きを確認。

分類	判定の要点	重み
A	正常	0.33
B	母指と小指で輪をつくる、または近くのコップを把持できる	0.66
C	指は動いても把持できない、または動きがない	0.99

10 腕

臥位で肘を伸ばした挙上と、肘を曲げた挙上を確認。

分類	判定の要点	重み
A	正常	0.66
B	肘伸展位、または肘屈曲位なら腕を持ち上げられる	1.31
C	動きはあっても挙上できない、または動きがない	1.97

10 下肢

臥位で膝を伸ばした下肢挙上と、自力の膝立てを確認。

分類	判定の要点	重み
A	正常	1.15
B	膝伸展位で挙上、または自力で膝立てが可能	2.31
C	動きはあっても膝立てできない、または動きがない	3.46

運動系の段階1＝A、段階2・3＝B、段階4・5＝C。「コップが持てる」だけで正常Aにはしません。疼痛・拘縮・体位制限などの影響は別に記録します。



図は動作の違いを示す例です。

右側・左側の所見を残し、独自に両側分の得点を加算しません。

他尺度の挙上角度や保持時間を、JSSの基準として付け足さないでください。

JSS 評価記録｜カテゴリーと集計

患者ID：_____ 評価日時：____年___月___日___時___分 評価者：_____

発症日：_____ 診断：_____ 麻痺側：_____ 利き手：_____

評価条件・検査に影響する要因：_____

項目	第5版の重み	選択	記入した重み
1 意識	A 7.74 / B 15.47 / C 23.21		
2 言語	A 1.47 / B 2.95 / C 4.42		
3 無視	A 0.42 / B 0.85 / C 1.27		
4 視野	A 0.45 / B 0.91		
5 眼球運動	A 0.84 / B 1.68 / C 2.53		
6 瞳孔	A 1.03 / B 2.06 / C 3.09		
7 顔面	A 0.31 / B 0.62 / C 0.93		
8 足底反射	A 0.08 / B 0.15 / C 0.23		
9 感覚	A -0.15 / B -0.29 / C -0.44		
10 手	A 0.33 / B 0.66 / C 0.99		
10 腕	A 0.66 / B 1.31 / C 1.97		
10 下肢	A 1.15 / B 2.31 / C 3.46		

重みの合計	定数	JSS得点
_____	−14.71	_____

全項目が判定できたときに集計。意識は1値、運動系は3値、合計12値です。未評価や判定不能がある場合は、その理由を記録し、無理に総点を作りません。

主要所見・左右差：_____

_____

JSS 経過記録｜所見と対応を共有

患者ID：_____ 時刻・総点だけでなく、変化した項目と実際の反応を残す

日時・評価者	総点／未算出の理由	変化した項目・観察所見	共有先・対応

計算と報告の例（架空例）

意識A・言語B・無視A・視野A・眼球運動A・瞳孔A・顔面B・足底反射B・感覚B・手B・腕B・下肢B → 重み合計18.19 − 14.71 ＝ JSS 3.48。

「14時10分、右腕は午前にできた肘屈曲での挙上ができません。腕はBからCに該当する所見です。他は未評価のため総点は未算出。練習を中止し、連絡しています」

出典・使用上の位置づけ

日本脳卒中学会．Japan Stroke Scale 調査票（第5版）．https://www.jsts.gr.jp/img/jss.pdf

Gotoh F, et al. Stroke. 2001;32:1800–1807. doi:10.1161/01.STR.32.8.1800

浜野均，篠原幸人．脳卒中．1999;21:408–412. doi:10.3995/jstroke.21.4_408

本資料はSTROKE LAB制作の学習・記録補助資料であり、学会公式用紙・公認資料ではありません。公式調査票を併用してください。内容確認：2026年11月3日。